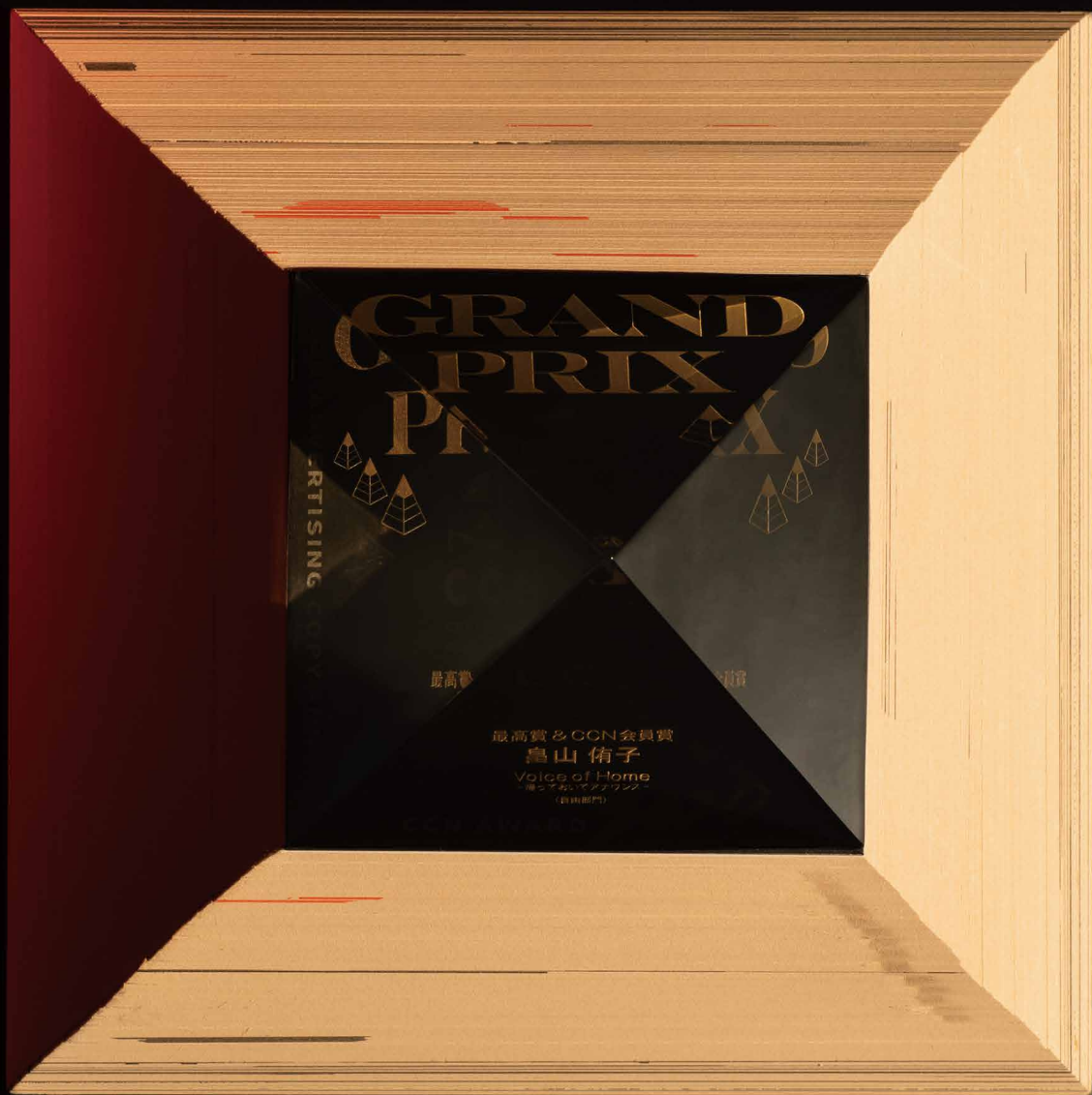




HIERARCHY
ANNUAL *2020*
悔しい年鑑





・特殊な製本技術でピラミッド型の年鑑を実現。



・受賞者には頂上のトロフィーが付属された年鑑を授与。



・受賞者以外には頂上のトロフィーが無い状態で配布し差別化。

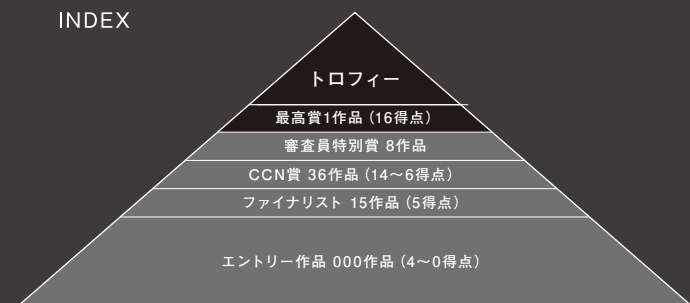
コロナ禍のなか、初のリモート審査となったCCN賞。

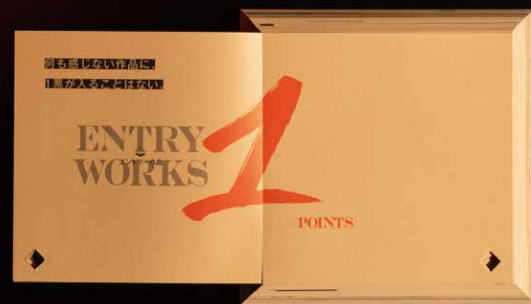
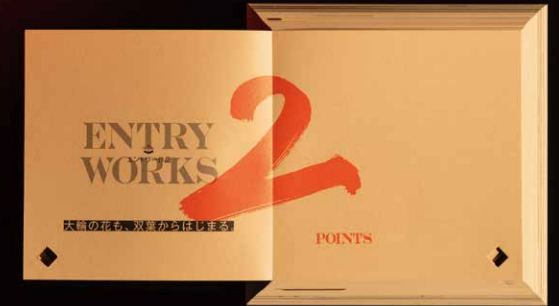
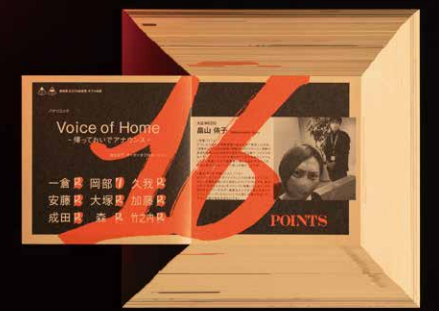
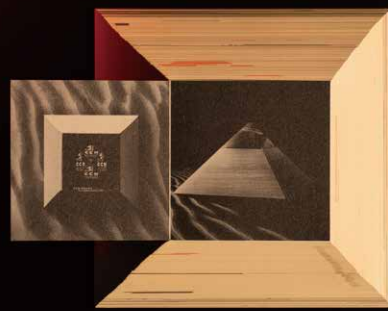
【背景】CCN（コピーライターズクラブ名古屋）が主催するCCN賞。毎年、全国から応募を募り、大学で一般公開審査を行っていた。だが、新型コロナウイルスの感染拡大により、一般公開審査を断念。すべてデータでの応募とし、審査はリモート、そして他の広告賞に先駆け初のオンライン受賞作発表会を行い、話題となった。しかし、CCN賞の特徴である、一般公開審査に参加し全作品を見ることで得られる「嫉妬」や「悔しさ」が失われつつあった。

全作品を得点順に掲載。「悔しさ」を生み、下剋上を狙う年鑑に。

【アイデア】CCN賞の存在意義は、優れた作品を称えるとともに、応募したすべてのコピーライターが自分の力を知り、次に向けてモチベーションを高めること。そこで、一般公開審査ができなかった代わりに、CCN史上初、全応募作品を年鑑に掲載。得点順に上から並べることで、自身が応募した作品の位置を知り、受賞までの距離が分かるものにした。また、過去に類を見ないピラミッド型の製本で、得点順という特徴を際立たせた。

INDEX



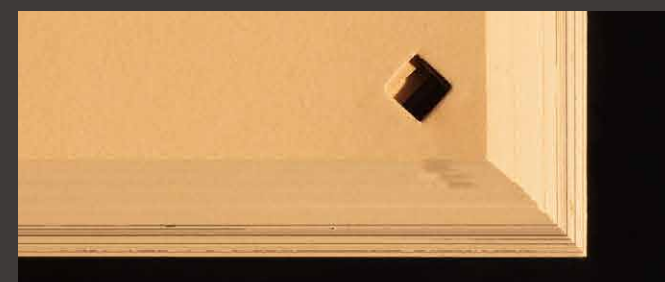


トロフィーで完成するピラミッド型の年鑑。

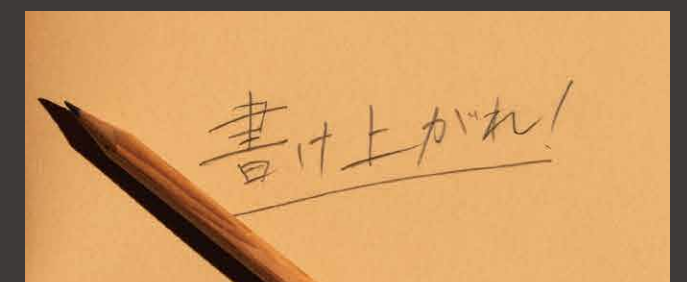
【デザイン】受賞者だけが貰えるトロフィーを年鑑の上に重ねることで、美しいピラミッドが出来上がる。コピーライターを象徴するように、鉛筆にも見える立体的な年鑑。また、ページの右下に階段状の穴が空いており、年鑑の中に仕込んだ鉛筆につながっている。その鉛筆で書かれた「書け上かれ!」のメッセージで、コピーへの意欲を促すものにした。



・レーザー加工で刻印した透明なトロフィー。



・ページの隅に階段状の穴は仕込んだ鉛筆まで続いている。



・本物の鉛筆と「書け上かれ!」のコピーで、仕事への意欲を促す。